しめのひとこと

志免町のいろんな**ひと**、いろんな**こと**をお伝えします！

35

多世代交流を彩る折り紙の魅力

居場所づくりを演出する折り紙

ほんだ　みちこ　**本田 道子**　　ふくだ　ようこ　**福田 洋子**

おりおりの会
みんなの居場所「いこうや」実行委員会

本田さん：転勤族として広島、熊本、大分で暮らし、志免町に居を構えて約40年。福田さん：志免町生まれの志免町育ち。毎月2回、子どもから大人まで様々な世代の方が食事やおしゃべりを楽しむ居場所活動「いこうやディ」「いこうやナイト」にて折り紙製作を担当。
※今回の取材では、みんなの居場所「いこうや」実行委員会の髙木代表にも同席していただきました。

折り紙に魅せられて講師やボランティア活動へ

福田さん（以下「福」）：二人とも同じタイミングで折り紙を始めました。公民館で開催された折り紙の講座に参加して、みんなの居場所「いこうや」実行委員会の前代表で、当時町民図書館の館長だった松井さんから折り紙を教わったのがきっかけです。

本田さん（以下「本」）：私はその講座でパンダを教えてもらったときに折り紙の魅力をすごく感じました。折り紙でこんなにパンダらしいパンダが作れることに感動し、折り紙にハマっていきましたね。

福：その後松井さんから「図書館で折り紙の講座を開きたいからぜひ講師に来てくれんね」と頼まれ、2006年に開催された図書館主催の折り紙講座で我々を含む3名が講師を務めました。講師として教えるほどの力はなかったけど…。

髙木さん（以下「髙」）：そんなに謙遜せんでもいい。お二人とも折り紙の達人ですから。

本：それから久山町の図書館からも依頼があって、講師に行きましたね。

福：その後、図書館ボランティア団体「おりおりの会」の活動に参加するようになりました。おりおりの会では、図書館での活動以外に夏休みに実施されているチャレンジひろば（志免町地域子ども教室）で子どもたちに折り紙を教えています。折り紙で動くものを作ると子どもたちがすごく喜ぶんですよ。ぴょんぴょんガエルとかコマとかね。あとは怪獣とか昆虫とか。

本：他には望山荘（2018年に閉館した志免町高齢者福祉センター）でも子どもたちに折り紙を教えましたね。あとはシーメイトで開催された「平和を考える町民の集い」で参加者向けに鶴の折り方を教えたりとか。

福：とにかく折り紙でね、色んなものが作れるんですよ。干支だったり、季節ごとに七夕、お正月、お雛様とか。一つだけじゃなくて色んな折り方があるんですよ。

▲取材ではたくさんの作品を見せていただきました

折り紙でちょっとした贈りもの 誰かのため、そして自分のために

福：いこうやでは、ご飯を食べに来てくれた子どもたちに折り紙を教えました。教えるというよりは子どもたちや高齢者の方も一緒になって「今月はこれを作ろう」とみんなで作っていましたね。

本：コロナが流行って、みんなで折り紙をすることが難しくなってからは折り紙作品をプレゼントするようになりました。本で調べたり、おりおりの会で出されたレシピをヒントに作品の構成を考えたり。

　折り紙が１枚あれば作品がすぐにできるから、それが楽しみですね。生活の一部になっています。家では散らかして家族に怒られますけど（笑）。

福：私はシニアクラブに入っているんだけど、誕生会でケーキを配るときに折り紙の作品をちょこっと付けたりするんです。こういうときに折り紙をしてて良かったなと思いますね。それに指先を使うから頭がシャキッとします。暇さえあれば折り紙をしているから、暇を持て余すことがないですね。「できんできん。本田さん、教えてー」って、時には苦になることもあるけど（笑）。

本：私は折り紙がレシピ通りにできなかったら、大道芸で風船を作ろう！と切り替えますね。

福：本田さん、すごいでしょ～。大道芸以外に太極拳や編み物もされるんですよ。

本：ずっと転勤族だったので、志免町で暮らすようになって色々な習いごとに参加できたのはすごく良かったなと感じています。そして志免の人はすごく優しいなと思います。

折り紙などの体験を通して 子どもたちに潤いを感じてほしい

福：この花火（表の写真で福田さんの手にある作品）は人の部分を私が作って、本田さんが花火を付けてくれました。いこうやディ、いこうやナイトで1ヶ月に30人くらいのプレゼントを用意しているから、本田さん、もう必死なんです。

本：そんなことはないけど、好きだから暇を見つけて楽しみながらやっています。子どもたちが喜んでくれるとうれしくて、また次もやろうという気持ちになりますね。それに知らない子どもから「折り紙のおばちゃん」って声をかけられたときはすごくうれしかったですね。

髙：何年か前にね、小学生が作文でお二人のことを「折り紙名人」って表現してくれたこともあったんですよ。

本：子どもは大人よりも夢中になるのが早く、そしてすごく感性があると感じます。我々が考えていないようなことを思い付いたりするので「なるほどこういうのもあるんだね」と教わったり、気付くこともありますね。

福：コロナが流行って、だんだんと色んな催しが縮小したり、中止になって、子どもたちに潤いがないと感じます。だから、いこうやでも本当はプレゼントするだけじゃなくて、また折り紙を教えることができると良いんですけどね。作品が完成したときの喜びを子どもたちに味わってもらえると良いなあと思います。折り紙を教えるとなると、それはそれで大変だけど、やっぱり楽しいもんね。

取材を終えて

　誰かを想像しながら作品をつくり続けると、こんなに素敵な折り紙作品ができるんですね。お二人の作品のクオリティの高さには、ただただ驚くばかりでした。まさに名人の域！早く子どもたちと一緒に折り紙ができるといいですね 。

■発行日：2024（令和6）年9月15日　■制作・編集：志免町まちづくり支援室
〒811-2244　福岡県糟屋郡志免町志免中央一丁目3番2号（生涯学習1号館内）